

News Release

(別添)

2019年8月22日
NITE(ナイト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所

自然災害をきっかけに発生する製品事故(九州・沖縄8県版)

～備えは万全に～

9月1日は防災の日^{*1}です。台風や地震などの自然災害が発生したとき、災害そのものによる被害だけでなく、災害をきっかけに製品事故が発生することがあります。自然災害時に起きる製品事故と、災害発生後、ガスや電気が復旧した際に起きる製品事故があるため、両者について注意喚起します。

2009年度から2018年度までの10年間にNITE(ナイト)に通知された製品事故情報^{*2}では、九州・沖縄8県において、ガスや電気が復旧した時に発生した製品事故はなく、自然災害発生時に起きた製品事故が3件^{*3}ありました。また、事前に対策を講じておけば防ぐことができた製品事故が1件あります。

自然災害そのものの被害に製品事故が重ならないように、どのような製品事故が起きるのかを把握し、事前にいくつかの対策を講じて、少しでも事故を防ぎましょう。

■ポイント

- ・自然災害の影響で発生する製品事故があります。
- ・自然災害で止まったガスや電気が復旧した時に起きる製品事故もあります。

【自然災害発生時の製品事故事例】

大雨が降った翌日、屋内型であるが屋外階段下の外壁に設置されていた太陽光発電システム用パワーコンディショナ及び周辺を焼損する火災が発生した。【2014年6月、宮崎県、拡大被害^{*4}】

【気を付けるポイント】

本来、屋内に設置すべきパワーコンディショナを屋外に設置したため、パワーコンディショナ内部に雨水が浸入し、端子台付近の絶縁性能が低下して、トラッキング現象が発生したことによる火災事故です。取扱説明書等に記載されている注意事項をよく確認し、正しい場所に設置しましょう。

なお、パワーコンディショナ本体には「屋外、軒下、風の影響で壁面・柱などを伝って内部回路に雨水など液体の浸入が想定される場所に取り付けない。」旨、記載されていました。

【自然災害後復旧時の製品事故事例】

九州・沖縄8県において、2009年度から2018年度までの10年間にNITEに通知された製品事故情報はありませんでした。

本部発行のプレスリリースの製品事故事例をご参照ください。

また、自然災害をきっかけに発生する製品事故のうち、自然災害発生によりガスや電気が止まった際に使用される製品^{※5}(本資料では以降「非常用グッズ」と記述する)において、誤った使用や経年劣化による製品事故が発生するおそれがあります。

2009年度から2018年度までの10年間に非常用グッズの誤った使用や経年劣化による事故は、九州・沖縄8県で6件^{※3}ありました。日頃から使い方に習熟し、いざというときに安全に使用できるよう備えましょう。

■ポイント

- ・非常用グッズの使い方に注意してください。
- ・非常用グッズは、長期保存により劣化しているおそれがあるため、定期的に点検・更新しましょう。

【非常用グッズの製品事故事例】

使用中のカセットこんろの下部から火が出て、周辺を焼損した。【2012年3月、鹿児島県、拡大被害^{※4}】

【気を付けるポイント】

カセットこんろの圧力調整器内にある安全弁(圧力異常上昇時に作動する弁)のOリングが長年の使用(約25年)により劣化し、硬化収縮したため、ガスが漏れ、こんろの火が引火した事故です。

カセットこんろは、ゴム製の部品も使用されていますので、ご使用頻度に関わらず、10年を目安に買い替えの検討を行ってください。

(※1) 1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災にちなんだもの。9月1日から一週間を防災週間としている。

(※2) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大事故やヒヤリハット情報(被害なし)を含む。

(※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

(※4) 製品だけではなくその周辺にも被害を与えたもののうち、人的被害が確認されなかったもの。

(※5) カセットこんろや携帯発電機など。

1. 自然災害の影響による製品事故の発生状況

(1) 九州・沖縄8県での自然災害別の事故発生状況

図1に2009年度から2018年度までの九州・沖縄8県での自然災害の影響で発生した製品事故3件について、「自然災害別の各年における製品発生状況」を、図2に「自然災害別の各事故発生地における製品事故発生状況」を示します。

なお、2016年4月に発生した「熊本地震」、2017年7月に発生した「平成29年7月九州北部豪雨」、2018年6月末～7月上旬に発生した「西日本豪雨(平成30年7月豪雨)」の影響で起きたと考えられる製品事故については、NITEに通知された製品事故情報には含まれておらず、他の災害時を含めて報告されなかった事例も数多くあると推察されます。

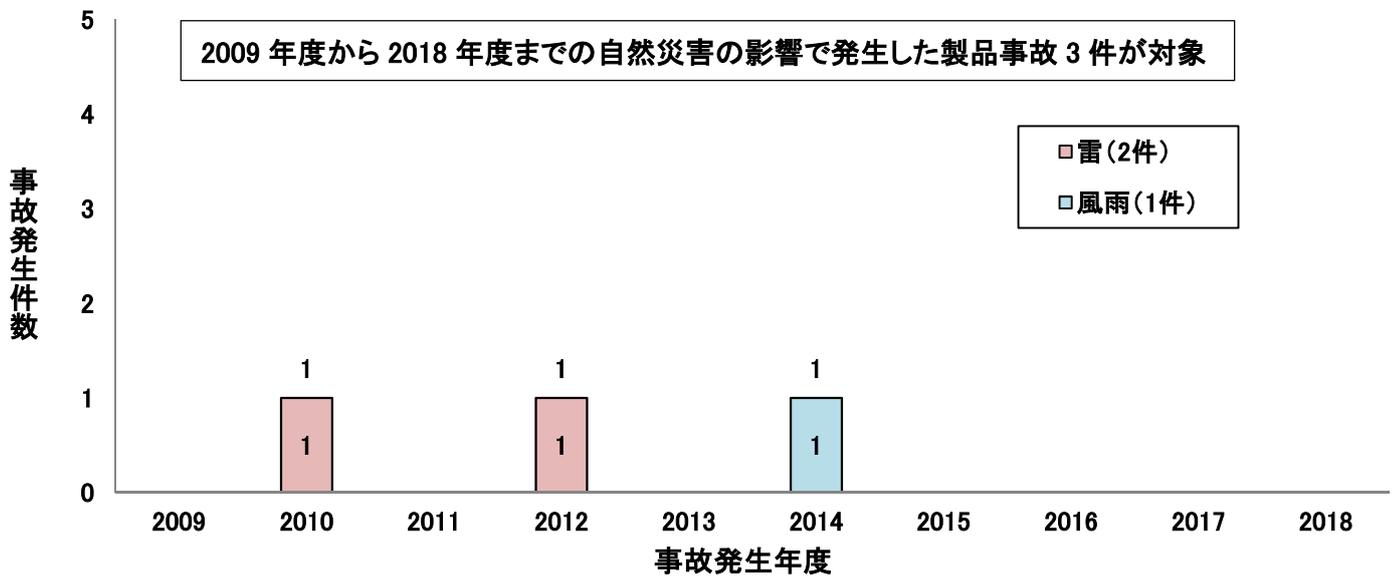


図1:九州・沖縄8県での自然災害別の各年における製品事故発生状況

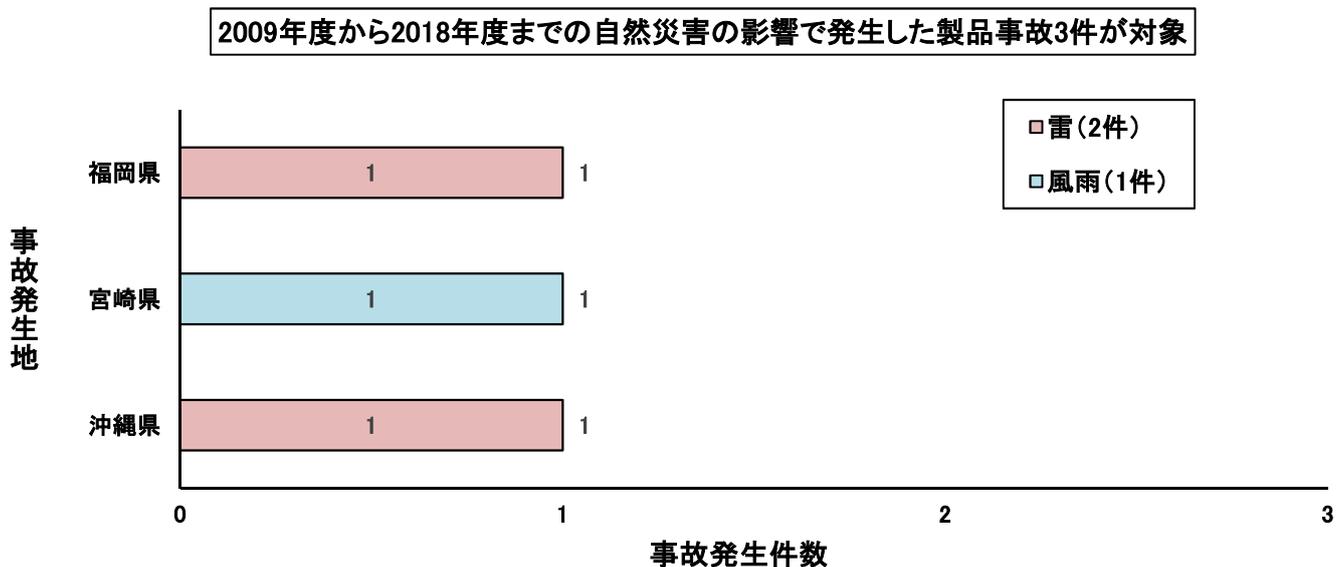


図2:九州・沖縄8県での自然災害別の各事故発生地における製品事故発生状況

(2) 九州・沖縄8県での自然災害別の製品別事故発生状況

図3に 2009 年度から 2018 年度までの九州・沖縄8県での自然災害の影響で発生した製品事故 3 件について、「製品別の各災害事象における製品事故発生状況」を示します。

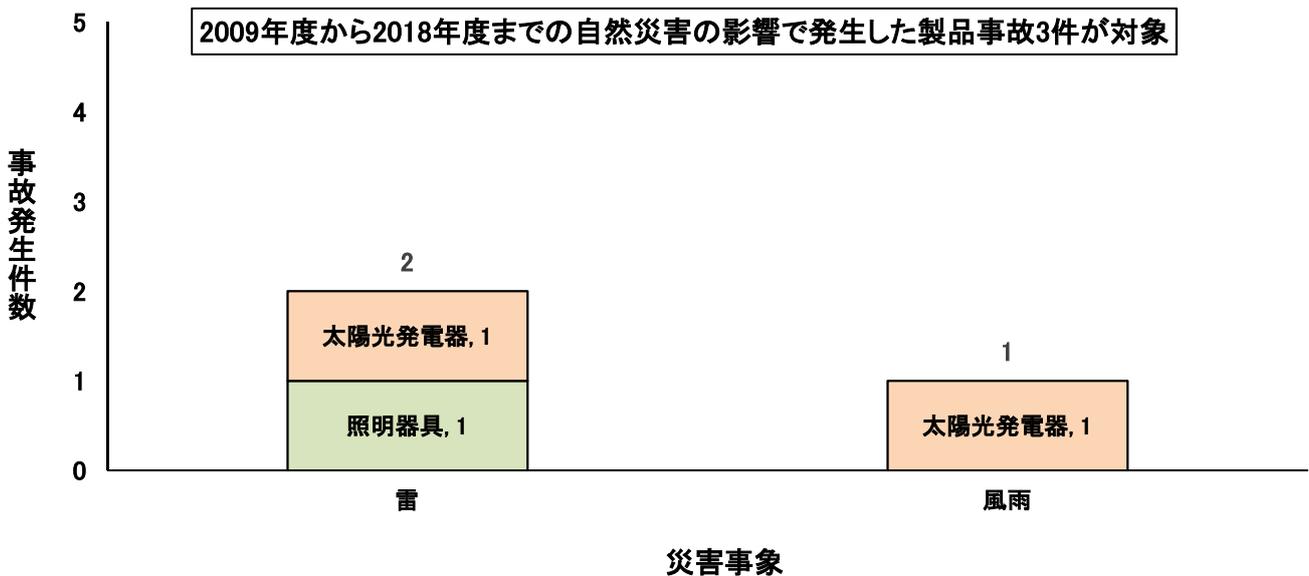


図3:九州・沖縄8県での製品別の各災害事象における製品事故発生状況

(3) 九州・沖縄8県での被害状況別の製品別事故発生状況

図4に 2009 年度から 2018 年度までの九州・沖縄8県での自然災害の影響で発生した製品事故 3 件について「製品別の各被害状況における製品事故発生状況」を示します。九州・沖縄8県では拡大被害のみです。

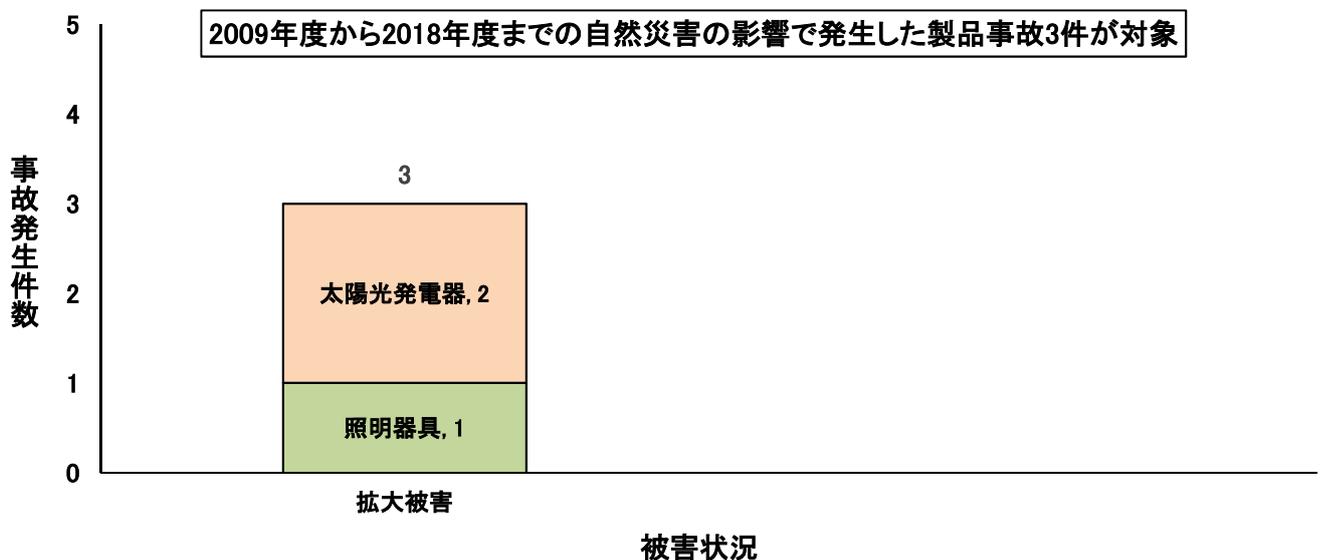


図4:九州・沖縄8県での製品別の各被害状況における事故発生状況

(4) 九州・沖縄8県での各製品の製品事故発生件数

図5に2009年度から2018年度までの九州・沖縄8県での自然災害の影響で発生した製品事故3件について、「各製品における製品事故発生件数」を示します。

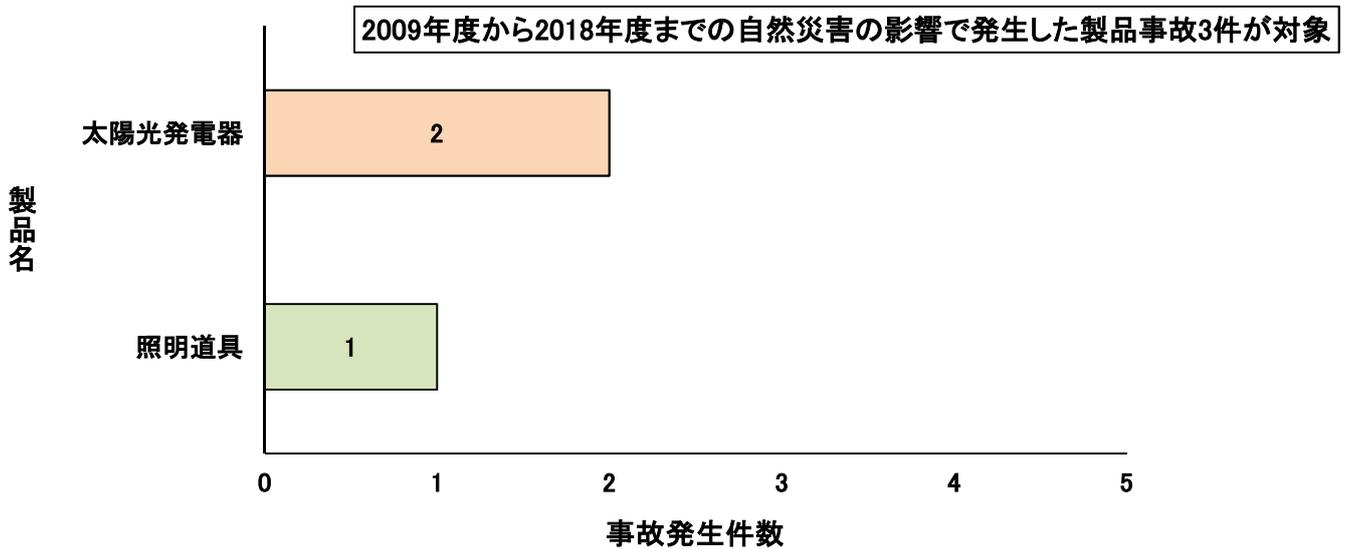


図5:九州・沖縄8県での各製品における製品事故発生件数

2. 自然災害の影響で発生した製品事故の事例

九州・沖縄8県での自然災害の影響で発生した製品事故の事例を示します。

(ア) 雷による事故（照明器具）

2010年8月（福岡県、50歳代・女性、拡大被害）

【事故内容】

帰宅すると門柱の外灯用照明器具内部のLEDランプが焼損し、ソケット器具が破損していた。

【事故原因】

事故発生当時、近くで落雷が起きており、取り付けていたソケット（陶器製）は破損しているが、LEDランプは、内部の電子部品（ダイオード）の焼損のみで、外観に焼損や破損は認められず、他にはIHクッキングヒーターの専用ブレーカーが焼損していることから、落雷の影響による焼損と考えられる。

(イ) 雷による事故（太陽光発電器）

2012年9月（沖縄県、30歳代・男性、拡大被害）

【事故内容】

異音とともに太陽光発電器のパワーコンディショナ及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故原因】

火災発生時は台風による暴風雨で、落雷などの異常気象が発生しやすい状況であったため、太陽光発電器のパワーコンディショナ及び専用ブレーカーの中性線に落雷による高電流・高電圧が加わり、内部部品が焼損したものと考えられる。

(ウ) 風雨による事故

2014年6月（宮崎県、年齢・性別不明、拡大被害）

【事故内容】

太陽光発電器のパワーコンディショナ及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故原因】

事故発生前日は大雨であった。パワーコンディショナは屋内設置型であるが、屋外階段下の外壁に設置していたため、雨水が製品内部に浸入して端子台付近の絶縁性能が低下し、トラッキング現象が発生して火災に至ったものと考えられる。

なお、製品本体には「屋外、軒下、風の影響で壁面・柱などを伝って内部回路に雨水など液体の浸入が想定される場所に取り付けない。」旨、記載されている。

3. 非常用グッズに関する事故の発生状況

(1) 九州・沖縄8県での被害状況別の製品別事故発生件数

2009年度から2018年度までの間にNITEに通知された事故情報の中で、非常用グッズの誤使用又は経年劣化に関する製品事故は6件ありました。図6に6件の「被害状況別の製品別事故発生件数」を示します。

2009年度から2018年度までの非常用グッズの誤使用及び経年劣化事故6件が対象

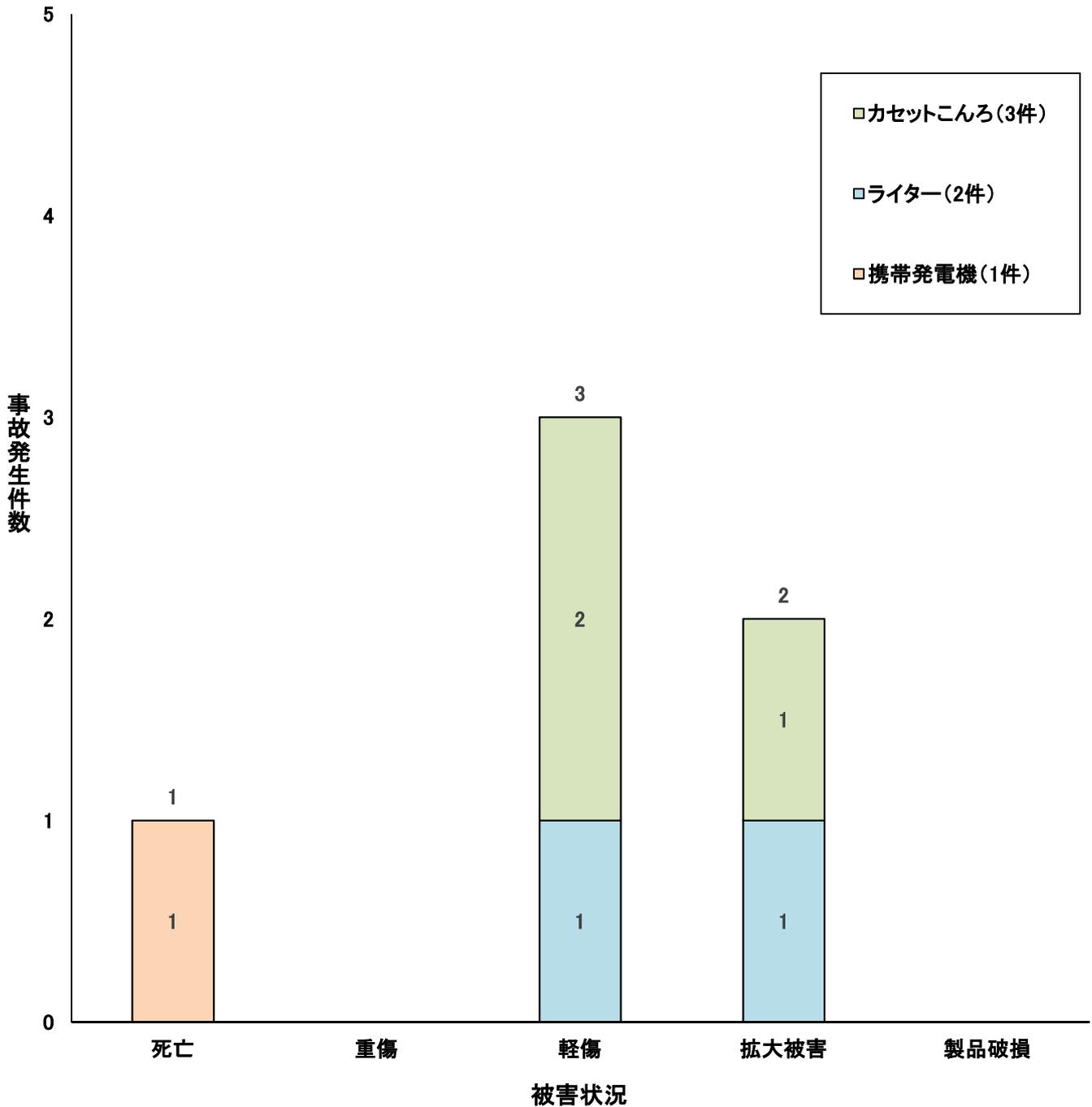


図6:九州・沖縄8県での被害状況別の製品別事故発生件数

(2) 九州・沖縄8県での被害状況別 被害状況別 事故発生件数

非常用グッズの誤使用又は経年劣化に関する事故 6 件について、表1に「被害状況別の事故発生件数」を示します。

表1:九州・沖縄8県での被害状況別 事故発生件数

	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	総計
携帯発電機	1	0	0	0	0	1
換気不十分による一酸化炭素中毒	1					1
カセットこんろ	0	0	2	1	0	3
外部からの加熱による発火や破裂			1			1
経年劣化によるガス漏れ				1		1
取付不良による発火や破裂			1			1
ライター	0	0	1	1	0	2
異物挟み込みによる残火				1		1
衝撃・接触により点火			1			1
総計	1	0	3	2	0	6

4. 非常用グッズに関する事故の事例

九州・沖縄8県での非常用グッズに関する事故の事例を示します。

(ア) 携帯発電機の一酸化炭素中毒事故

2016年11月(長崎県、30歳代・男性、死亡)

【事故内容】

工事現場で携帯発電機を使用中、1名が死亡(死因は未確定)、3名が軽症を負った。

【事故原因】

携帯発電機の運転状態等に異常は認められないことから、換気が不十分な導水トンネル(半円形状:高さ約2.3m、幅約1.8m)内で使用したために、当該製品の排気ガスによって一酸化炭素中毒となったものと考えられる。

なお、本体表示には、「排気ガス中毒の恐れがあるため、屋内などの換気の悪い場所で使用しない。」旨、記載されており、取扱説明書には、「排気ガスには一酸化炭素などの有害成分を含んでおり、中毒の恐れがあるため、屋内やトンネルなどの換気の悪い場所で使用しない。」旨、警告表記されている。

(イ) 長期間使用したカセットこんろの経年劣化事故

2012年3月(鹿児島県、80歳代・女性、拡大被害)

【事故内容】

使用中のカセットこんろの下部から火が出て、周辺を焼損した。

【事故原因】

カセットこんろの圧力調整器内にある安全弁(圧力異常上昇時に作動する弁)のOリングが長年の使用(約25年)により劣化し、硬化収縮したため、ガスが漏れ、こんろの火が引火したものと考えられる。

(ウ) 2台のカセットこんろを近接して並べて調理中に、加熱されたカセットボンベが破裂した事故

2017年4月(宮崎県、年齢不明・性別不明、軽傷)

【事故内容】

屋外でカセットこんろを使用中、カセットボンベが破裂し、6人が火傷を負った。

【事故原因】

カセットこんろを2台近接して並べ、一方のこんろの五徳を裏返してセットし、それぞれに比較的大きな鉄板を用いて調理していたため、五徳を裏返した方のカセットボンベが加熱し爆発したものと考えられる。

(エ) 異物挟み込みによるガスライター事故

2015年4月(福岡県、年齢不明・女性、拡大被害)

【事故内容】

使用後の簡易ガスライターを車のドアポケットに入れたところ、ドアポケット周辺を焼損した。

【事故原因】

簡易ライターは、ノズルレバーの下付近に木片とみられる異物が確認されたことから、ノズルレバーの正常な動作が阻害され、残火が発生したものと考えられる。

なお、本体ラベルに、「消火を確認する」、「残火・ガス漏れの原因となる異物混入のないことを確認する」旨、記載されている。

5. 自然災害の影響による事故及び非常用グッズに関する事故の実験映像の提供

自然災害の影響による事故及び非常用グッズに関する事故の実験映像の写真及び動画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+ロゴ」としてください。

※nite ロゴ

nite

(本件に関する問い合わせ先)

〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原 2-1-28
独立行政法人製品評価技術基盤機構
九州支所 技術課
担当者 澤田、篠崎

電話: 092-551-1315、FAX: 092-551-1329
[e-mail:sawada-mitsuhiro@nite.go.jp](mailto:sawada-mitsuhiro@nite.go.jp)
[e-mail:shinozaki-kenzo@nite.go.jp](mailto:shinozaki-kenzo@nite.go.jp)

以 上